

検体提供者の皆様へ

成人急性リンパ芽球性白血病におけるトランスクリプトーム解析(JALSG ALL2020-EWS)のお知らせ

研究事務局: 早川 文彦(名古屋大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学)

今回 JALSG では、成人急性リンパ芽球性白血病(ALL)の発症の原因となる遺伝子異常、及び重篤な有害事象の発症につながる遺伝子多型性を調べるために上記研究を計画しております。使用する遺伝子検体は以前に行われた臨床研究において同意のもと収集されたもので、対象症例は下記の通りです。このお知らせは、対象となる遺伝子検体の提供者の皆様にご研究の概要をお知らせするものです。

【研究の目的】

成人 ALL の発症の原因となる遺伝子異常、及び重篤な有害事象の発症につながる遺伝子多型性を調べるために行います。この研究の成果が ALL の発症の原因の解明や、治療反応の予測、重大な副作用の発生の予測に役立つ可能性があります。

【対象症例】

三重大学医学部附属病院で 2002 年～2010 年に 25 歳以上(発症時)の ALL に対して行われた JALSG ALL-2020 試験への登録症例で、登録時に随伴研究「ALL の病型診断および病態解明のための遺伝子研究」への参加と残余検体の保存にご同意いただいている方。

【研究の方法】

上記の随伴研究にご同意いただいている方は登録時に白血病細胞の遺伝子を抽出、保存させていただいております。また、当院には治療効果の評価のために実施された「寛解時の骨髄病理検体の残り」が保管されています。今回の研究では登録当時は開発されていなかった技術を用いて、抽出されている遺伝子全ての異常を網羅的に調べ、当院に保管されている骨髄病理検体の残りから抽出した寛解時の血液細胞にも同じ遺伝子の異常が存在するかどうか調べさせていただく予定です。調べられた遺伝子の異常の有無と、治療への反応性、副作用の重症度などの臨床情報を合わせて解析し、遺伝子の異常とこれらの関係を調べます。解析にあたっては連結不可能匿名化という手法を用いて個人情報と切り離し、遺伝子が誰のものか分からな

い状態にして解析します。したがって、今回の研究(骨髄病理検体の残りから抽出した寛解時の血液細胞の提供も含む)に同意いただけない場合は、匿名化を行う前でしたらあなたの検体を使用することを取りやめることができますので下記の連絡先にご連絡ください。しかし、いったん検体が誰のものかわからない連結不可能匿名化をした後は、同意を撤回して研究を取りやめることはできないことをご了解ください。この匿名化の時期については、研究の進捗状況によって変わることがあります。

【研究についての問い合わせ先】

上記対象症例に該当する方で、提供いただいた検体がどのような研究に用いられ、自分に何か影響があるかなどさらに詳しくお知りになりたい方は、下記連絡先までご連絡ください。

JALSG ALL-2020 試験へ登録された病院の担当医

三重大学医学部附属病院血液内科 杉本由香

TEL 059-232-1111